

第31期目録委員会記録 No.11

第11回委員会

日時：2008年6月21日（土）14時00分～16時30分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，稲浜，木下，平田，古川，横山，渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 国際目録原則覚書草案（2008年4月10日版）へのコメント案集積（3ページ-A4，中井委員長）
2. 国際目録原則覚書（2008年4月10日版）日本語訳（IFLA Cataloguing Section内、Invitation to worldwide reviewへの掲載版）（[1], 16ページ-A4，横山委員）
3. RDA草案 第16章 場所の識別（Identifying places）概要（4ページ-A4，木下委員）
4. Response to On the Record: Report of the Library of Congress Working Group on the Future of Bibliographic Control（75ページ-A4，中井委員長）
5. On the RecordへのLC回答要約（未定稿）（8ページ-A4，中井委員長）
6. 「次世代目録所在情報サービスの在り方（中間報告）」への意見（不提出）（2ページ-A4，古川委員）
7. 第31期目録委員会記録 No.9（2ページ-A4，事務局）
8. 第31期目録委員会記録 No.10（案）（2ページ-A4，事務局）

[報告事項]

1. 国際目録原則覚書（2008年4月10日版）日本語訳のIFLA HP掲載および今後について
6月16日、国際目録原則覚書（2008年4月10日版）日本語訳をNDLホームページに掲載した。
2. Guidelines for National Bibliographies in the Electronic Age（IFLA Working Group on Guidelines for National Bibliographies）がIFLA書誌分科会よりworldwide reviewに付されている。NDLにおいて、中井委員長が5章を、横山委員が4章を査読。NDLの対応は検討中。7月15日までに意見を提出すれば、IFLA常任委員会で検討される。
3. その他
渡邊委員から、今年度も、全国図書館大会（9月18、19日）において件名標目分科会が開催されるとの紹介があった。

[検討事項]

1. 国際目録原則コメント案について

資料1、2に基づき、提出するコメント文の検討を行った。主な結論は次のとおり。

- ・ 現在提出されている案への追加コメントはない。
- ・ 全体のトーンは、「コメント付のagree」である。
- ・ 中井委員長から、JLAとして投票する。（補記：6月27日に提出済み。）

2. RDA草案について

木下委員から資料3に基づき、2007年12月草案の第16章について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- ・ 概ね現行のAACR2の23章のままである。16章にはこれから改訂が入る予定。ただし、例えば、16.2.0.3の目録作成機関の言語優先などのように、すでに変更された箇所もある。（cf.目録作成機関の優先する言語が優位であるのはRDA全体の方針である。）
- ・ 場所（河川名などを含む場所としての地名）と地名（団体名としての地名）は分けて考える。
- ・ 末尾の丸がっこは付記事項ではなく、名称の一部として取り扱われている。

例：Mexico City (Mexico)

- ・ 物、概念、場所等は、アクセスポイントとなりうるのか疑問である。
- ・ 16.4「Coordinates」の訳語は、「調整」ではなく「経緯度」である。
- ・ 記述内の地名（出版地等）は、16章の範疇ではない。
- ・ 場所は件名標目として扱われることになるのだが、現段階の16章では、なにも決まっていない。
- ・ 12章のobjectと、どう折り合いをつけることになるのか。
- ・ 個人名、団体名も含め、AACR2からあまり変更がない。標目はAACR時代からメンテナンスがなされており、今から大きく変更の余地はないのではないか。

3. On the RecordへのLC回答について

中井委員長から資料4、5に基づき、On the RecordへのLCからの回答について説明があり、意見交換を行った。主な指摘・意見は次のとおり。

- ・ LCは、現在はRDA中心に力を入れてゆくようだ。On the RecordへのLCからの回答中、3.2.1.1に記されているように書誌的機構の協調的な再開発のためのWG召集は2010年以降となる模様である。
- ・ 2009年にRDAをテストすることを予定しているが、実際にどのように行うのか。
- ・ 全体としては、現状維持基調の回答である。指摘事項については、概ねLCは、なんらかの形で既に実施しているとの回答となっている。
- ・ NIIが6月に行ったワークショップで発表した方針については、8月までの期間でパブリックコメントを募集中である。これまで7,8通のコメントがあった。

- ・ NDLの新方針「国立国会図書館の書誌データの作成・提供の方針（2008）」に関連しての話題は、まず、データベース提供方針を改正中である。インターネットでのデータ提供が可能な制度とする。PORTAでの使用が当面の焦点。また、NDL-OPACからのダウンロード機能を改修中である。
4. 「次世代目録所在情報サービスの在り方（中間報告）」への意見（不提出）について古川委員から資料6に基づき、説明があった。中間報告に対する主な意見は次のとおり。この意見は、パブリックコメントとして、NIIが受け付けることとする。
- ・ NACSIS-CATには、構成単位の著作の入力が不足している。
 - ・ リンクの充実に関する検討を求める。
 - ・ 役割表示の重要性を認識すべきである。

○委員補充については、引き続き検討する。

○次回以降の委員会の予定は、以下のとおり。9月の日程は、7月の会合時に決める。

7月26日（土）

以上